

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500121		
法人名	株式会社JAふるさと介護サービス		
事業所名	グループホームえんじゅの里		
所在地	〒023-0841 岩手県奥州市水沢区真城字杉ノ下131番地		
自己評価作成日	平成 24 年 8 月 31 日	評価結果市町村受理日	平成24年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kan=true&JiyosyoCd=0391500121-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成24年9月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・自家菜園は施設内から見える所にあり、季節の移り変わりを感じるとともに、野菜作り、収穫、食卓に並んだ時の会話等、絶えず笑顔が見られる。 ・協力歯科医の定期的(最低月1回)な訪問による歯科指導・個人診断、歯科スタッフの口腔ケアの寸劇等、多様な交流を毎月行っている。 ・社内のデイサービスセンター(金ヶ崎町)へドライブを兼ねながら行き、歌謡・舞踊ショー、交流会等 楽しみの一つとしている。 ・道路向かいにJAの産直が建設中(10月オープン予定)で、買い物はもとより、様々なイベントの開催等に出向くことなど大変心待ちにされている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、市街地近郊の田園地帯に立地している。道路を挟んだ向かい側には、JAが整備する大規模産直施設が10月に完成予定であり、買い物、散歩などでの利用も期待できる。また、施設の駐車場に続く道路を、登下校の児童が通り、そのにぎやかな会話が利用者の微笑みを誘っている。</p> <p>昨年4月の開所で、建物内部は広く、明るく、吹き抜けの天井からはやわらかい光が注ぐ。居間、食堂などの共用スペースもゆったりとしており、8畳の和室と併せて、利用者はそれぞれの場所で時間を過ごすことが出来る。居室は、ほとんどが南に面し、窓からは手入れしている菜園が見え、その先には田園地帯が広がる。職員は、新しい施設の円滑な運営のために努力している。特に立地上のメリットも活かして、地域の一員とし、地域に溶け込む施設運営に努力している姿勢がうかがえる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私達の理念」を事務室・玄関に表示している。又、職員会議等、皆で唱和し日常生活で理念を実践できるように心がけている。	理念(要約)は①利用者の力を引き出し、②体調の変化を見逃さず、③地域との架橋となり、④向上心を持ち続ける、で姉妹施設の理念を参照してつくられた。職員会議で唱和するなどしているが未だ十分に浸透していない面も感じられる。	理念は活動の指針であり、日常の実践に反映させることが望ましい。優しく、具体的な施設の理念を職員の日々の介助の中で活かせるように、その定着のために一層の工夫、努力をされるよう期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は少ないが地域の文化祭に招待を受け参加している。マラソン・駅伝には沿道で周辺の方々と一緒に声援を送った。施設敷地内での夕涼み会には近隣の方も見えられ花火等一緒に楽しまれた。	地域の文化祭では、会場に利用者の席を用意してくれた。また、当事業所の夕涼み会では、近隣の人達も参加して、屋台や花火などを楽しんでいく。広い駐車場は外からも入りやすい。学童が下校時に立ち寄ることもある。自治会には未加入である。	地域との連携に意欲的に取り組んでいることがうかがえるが、立地上のメリットも活かして、自治会行事へ積極的に参加するなど日常的な交流についても、より一層努めることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学者や地域の女性部等の慰問時に施設設備・環境、認知症高齢者の理解と支援を呼び掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・施設の状況報告を行うとともに運営について助言を頂いている。又、各々の立場の委員からの意見や要望、消防署員の委員からの専門的な指導等、様々な情報を交換し合いサービスの向上に努めている。	委員は、入居者、家族、市職員、地域の民生委員、地区振興会長、地区センター長、消防署員で構成している。入居者、家族はそれぞれ1名だが、特に家族については、複数名の参加を検討する余地もあると思われる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居希望者及び相談者の情報交換を行っている。又、制度の問合せ・事業所の状況等の相談を行い指導を受けている。介護相談員の訪問が半年毎にあり利用者の日々の様子等を伝えている。	市とは、運営推進会議での意見交換のほか、随時情報交換を行っている。市の担当者が、事業所の行事への案内に応じて、来てくれることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内・社外研修に参加して、何が身体拘束に当たり何故いけないのか理解して、身体拘束を行わないケアを行っている。	職員会議では、身体拘束をしないケアについて話し合っている。法人でも月に1度、研修を行っており、それらの研修にも参加している。日中は施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修会を実施し、職員の虐待防止に対する意識向上に努めている。又、声かけや介助等気になることがある場合、職員会議で話し合いを持つようにしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームえんじゅの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者があり、後見人の方とは常に細かく連絡をとり支援している。また、年1回研修会を実施し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約終了の際には、本人・家族と入居後の対応及び生活について話し合い、不安軽減に努めている。制度・料金改定の際は文書にて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご意見箱」の設置や苦情相談窓口及び方法等について掲示している。又、毎月のお便りに記入欄を設け、家族の意見、要望等を聞くようにしている。	家族とは、毎月のお便りに書かれた意見、要望に沿って、電話で話をしたりさらにお便りを出すことで意思の疎通を図っている。そのほか、家族が訪れたときに話し合いをしている。家族会は組織していない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議において、職員の意見・提案等話し合いの場を設けている。業務改善・行事の対応についても常に話し合いを行い共有し進めている。	職員会議では、利用者の状態について認識を共有するため話し合うほか、勤務体制のあり方などについても議論をしている。職員には他事業所(施設)での経験者も多い。自己評価には、管理者が示した原案に対する職員の意見も反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう、外部研修会への参加、会社として資格取得に向けた助成制度が整備されている。管理者は勤務表の作成、就業報告書は代表者検印となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回のCS向上でマナーの研修を取り入れている。職員の知識・技術向上のため年間研修計画を作成し実施している。外部研修会後は報告の場を設け情報を共有している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会や県南ブロック研修会に参加し情報交換している。また、交換研修にも参加しサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を早期に築けるよう入居前に訪問し、家族等から情報を得て状況を理解するようにしている。また、要望・訴え等に傾聴し本人が安心感を持って頂けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際には家族の不安・要望を十分に聞くようにしている。また入居後には面会をお願いして家族との信頼関係の早期構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	既往や生活歴、本人や家族の必要としている思いを考慮し、職員間で話し合い情報を共有し、支援を開始している。又、入居開始直後は細かく記録・申し送りを徹底し、一日でも早く馴染んで頂くように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の習慣や地域の行事等を教えて頂いたり、日常生活において、掃除、配膳、洗濯たみ、畑の草取り等、利用者の得意分野で力を発揮・お願いしたりして互いに支え合い生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りや、ホール内に貼ってある掲示物で利用者の生活状況を伝えている。また、家族参加の行事を計画し、来所して共に楽しく過ごして頂けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんが前に働いていた食堂から出前を取ったり、利用者の自宅付近へドライブに出かけたりしている。知人・親戚に年賀状を書いて状況を伝えている。	家族や知人、友人の来訪が多い。複数で連れ立ってくる人もいる。年賀状などを書ける方には、書いてもらっている。手紙が届けば、返事を出すように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話をしたり、笑顔で過ごせる関係を築けるようホールの座席に配慮している。職員が一人ひとりの場面に応じた声かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時には見舞いに行き、家族と連絡を取り合い今までの生活に近づけるように相談している。また、他施設に移られても今までの生活に近づけるよう家族や施設側と連絡・相談等に応じている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前の利用者・家族等の情報に基づき、本人の希望・意向を職員同士で情報を共有しながら支援に活用している。また、一人ひとりに担当職員を決め、利用者が安心して思いを話せるよう努めている。	利用者と(スタッフが)二人きりになった時など、ふと本音を漏らすことがある。そのような思いを大切にそれぞれ申し送りしている。センター方式も利用している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問により家族・本人から可能な限りの情報を得るように努めている、又、日常生活の会話の中から本人の情報を得るように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌・ケース記録・健康チェック表等の記録・ミーティング等を通じ、一人ひとりの状態の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族からの希望や情報を基に、職員会議で話し合い計画を作成している。状態等に変化がみられた場合は、本人・家族の要望等・職員会議での意見を反映し、介護計画書を作成している。	家族とは面会時に、利用者の状況や要望に関する話をしている。また、担当を決めている職員からヒアリングをし、職員会議で話し合いながら確認を取っている。それらを反映しながら計画の作成、見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や業務日誌、申し送り等により職員間で情報を共有している。毎月の職員会議では、日常生活での気づきをもとに援助の見直しなどを話し合っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合により通院介助が困難な場合は職員が同行している。又、毎月JAの理容室がボランティアとして訪問し行っている。会社が運営するデイサービスセンターに出向き(金ケ崎町)歌謡・舞踊ショー、交流会等を楽しんでいる。			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームえんじゅの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の広報・各種情報、地区センターが毎月発行する広報により地域の行事等、情報の収集に努め話題にし時には見学して生活にメリハリをつけている。近くの駐在所に入居者の情報を提出している。又、時々巡回して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は家族対応としているが、困難な場合は職員が対応している。主治医には必要に応じ施設での情報・状況等を提供している。	ほとんどの利用者は従来のかかりつけ医を継続している。受診の際の付き添いは、原則家族対応としている。歯科医は地元の協力医療機関にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフ同士(介護・看護)が、互いに情報共有し利用者の体調変化に早く気づき対応している。社内の他事業所の看護師に利用者の体調報告・相談し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の情報(生活の様子など)を医療機関に提供すると共に、入院中は病院を訪問し経過を聞くなど連携を図り支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けての指針を作成するとともに入居時には、家族に説明し同意を得ている。まだ該当する利用者はいないが、主治医・家族の協力体制等、十分に打ち合わせを行い取り組むこととしている。	姉妹事業所のグループホーム「四季の郷」と共通の看取り指針を作成しており、入居の際には家族にも説明をしている。まだ看取りの例は無く、訓練などの対応もこれからであるが、法人内での連携、関係者の協力体制の下に支援に取り組むこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、急変や事故発生時に備えている。社内外研修で救急救命の講習を受講し急変時に備えている。AEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、年2回夜間・昼間を想定した避難訓練を実施している。また、停電想定訓練・無通告による火災通報訓練を行っている。近くの地区センターが地区全体の避難所となっていることから災害時には避難することとしている。	6月に夜間訓練、10月に昼間訓練を行っている。運営推進会議のメンバーや地域の人たちに連絡をして、実施している。非常用備品も備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の性格を理解し、その方に合った対応を心がけている。OJTチェックリストを活用し日々の利用者に対する言葉かけや対応を振り返り見直しをしている。	同じ声をかけても人によって対応が異なる。利用者それぞれの人格を尊重し、個性や感受性を大切にしている。また、詳細な点検項目からなるOJTチェックリストを作成し、職員一人ひとりが自己点検をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、入浴・外出等、本人が自己決定できるように支援している。また、複数の選択肢から決めて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望(テレビを見る・自室でラジオを聞く・横になりたい等)に合わせた過ごし方ができるように一人一人の状態や想いに配慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	JAの理容師が来所し、利用者の希望、要望を聞きながら理容している。更衣に関しては本人の意思を尊重し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	他利用者と楽しく食事ができるよう、食事の挨拶(声かけ)等の役割を持っていただき、食後には、下膳・食器拭き・テーブル拭き等一緒に行っている。	調理師の資格を有する職員が二人おり、献立は職員が季節の食材や利用者の希望などを考慮しながら作っている。近所からは、頻りに野菜等のおすそ分けもある。利用者は、職員と一緒に食器を拭いたり、テーブルを拭いたりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表にて一日の水分摂取量を把握している。食事チェック表にて一日の栄養摂取量を把握するとともに個々に合った食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けを行い、必要な方には口腔清掃、義歯の取り扱いを支援している。義歯の方の消毒は夜間に行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームえんじゅの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い排泄パターンの把握をし、定期的な声かけや誘導等トイレで排泄できるように支援している。	基本的にトイレでの排泄を誘導している。異性介助も行うが、羞恥心には十分配慮している。排泄チェック表を活用し、個別的な声掛け誘導も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	パタカラ体操等を行い飲食物の摂取向上に努めている。排泄チェック表により便秘の方を把握し、下剤で排泄コントロールを行っている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の入浴習慣や入浴の好み(入浴剤、ゆず等)に応じた対応をし満足感をえられるようにしている。拒否される方には無理強いせず時間をずらして声かけや翌日の入浴など柔軟に対応をしている。	毎日午後が入浴時間である。二日に一度の入浴を基本としている。風呂は洗い場、脱衣室両方に職員がついて対応している。異性介助等もトラブルなく行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転のある方はできるだけ日中活動を促している。寝付けないときはゆっくりと話をしたり温かい牛乳を提供している。また、身心の状態把握に努め、寝具・空調・照明等を検討し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個別に管理し常に確認できるようにしている。体調等に変化があった場合、経過記録等に記録し、必要な場合は家族に報告するようにしている。服薬は施設で管理し本人に手渡し、飲み込むまで確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事、掃除、洗濯干し・たたみ方、テーブル拭き、コーヒーを入れる等、利用者の希望にそった役割又は適切な役割を見出し満足感と楽しみができるように支援している。利用者の誕生日に行う誕生会も楽しみとなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩、希望に応じ買い物と一緒に出掛けたり、戸外に出かける行事を計画し外出する楽しみを味わっていただけるよう支援している。	春、秋などの季節が良い時期には、毎日、徒歩で事業所の周囲を2、3周している。買い物には車で行くが、対応できる利用者は交代で同行している。猊鼻溪でのピクニック、夏油温泉、金ヶ崎のジャスコへの買い物ツアーなど外出の機会を楽しむようにしている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームえんじゅの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いを預かっている方もいる。必要な物がある時は職員と一緒に買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参している利用者がおり、時々介助している。家族・知人からの電話は取り次ぎをしている。また、自筆の年賀状など家族・知人に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式の台所で食事に関する五感を感じていただいている。窓を開けることによって季節を感じていただき、季節の花等も飾っている。ホール内に各種行事の写真を貼っている。	居間兼食堂は事業所の中心部で、十分な広さが確保され、吹き抜けからは柔らかい自然光が注いでいる。また、一角には畳の部屋もあり、利用者は時々気分によりそれぞれの居場所を見出すことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、ホールにはテレビ、ソファー、リクライニング椅子、電子ピアノ、こたつがあり自由にくつろげるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望により、居室には写真、テレビ、馴染みの筆筒など持ち込まれている。	居室は、ベッド、収納用クローゼット、洗面台が備え付けられ、利用者はテレビや机、椅子などを持ち込んでそれぞれの生活空間を作っている。大半の部屋は南に面して、窓の前には菜園や田園風景が広がる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・風呂場等には表札で表示している。又、居室内の安全確保のため個々に応じた対応をしている。クッション性のある床材を敷いて安全に過ごせるようにしている。		